

平成27年度ノリ養殖概況

亀井良則*・古村振一*

養殖環境 平成27年10月から平成28年3月までのノリ養殖期間中の旬別平均気温の推移を図1、平成27年4月から平成28年3月までの月別降水量の推移を図2、養殖期間中の日別降水量の推移を図3に示した。

岡山市における平均気温は10月上旬から下旬まで平年より低めに推移したが、11月上旬から3月下旬まで概ね平年より高めに推移した。養殖期間中の降水量は10月は少なかったが、11月中旬には45mm/日を記録する大雨に見舞われるなど、12月まで定期的に降水があり、平年より多めで推移した。その後は平年並みからやや少なめの降水量となった。

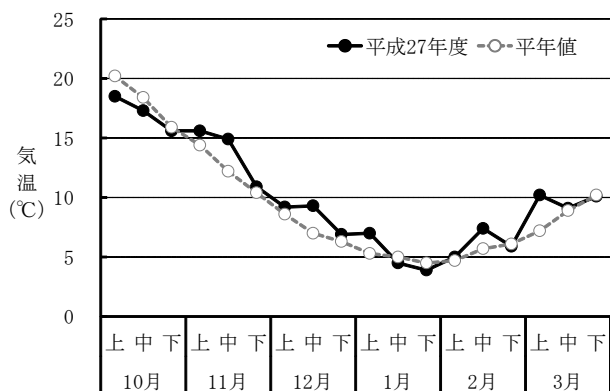


図1 平成27年度漁旬別平均気温の推移
(岡山地方気象台)

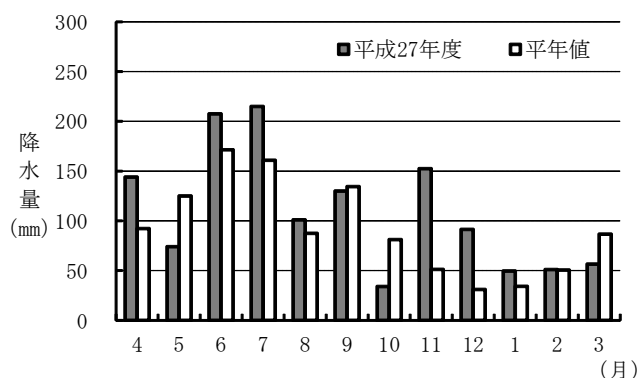


図2 平成27年度漁期月別降水量の推移
(岡山地方気象台)

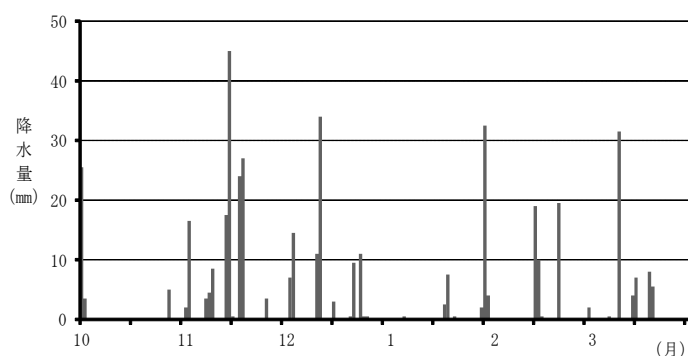


図3 平成27年度漁期日別降水量の推移
(岡山地方気象台)

瀬戸内市牛窓町地先海面に設置した水温自動観測装置による、ノリ生産期間中の水深2m層における日平均水温の推移を図4に示した。10月上旬は順調に水温が低下し、10月12日に23℃を下まわったが、11月10日まで20℃台で停滞した。その後も水温降下は鈍く、3月下旬まで水温は平年より高めで推移した。

溶存態無機窒素濃度は11月下旬に最高10.7 μ Mまで増加したが、その後減少し、1月上旬までは5 μ M台を維持したものの、1月下旬には0.6 μ Mまで減少した。その後、2月上旬には一時的に3.5 μ Mまで回復したが、再び減少し2 μ Mを下回った(図5)。また、大型珪藻は*Coscinodiscus*属が10月から11月上旬まで、*Eucampia*属が1月から3月までそれぞれ出現したが大量発生はみられなかった。

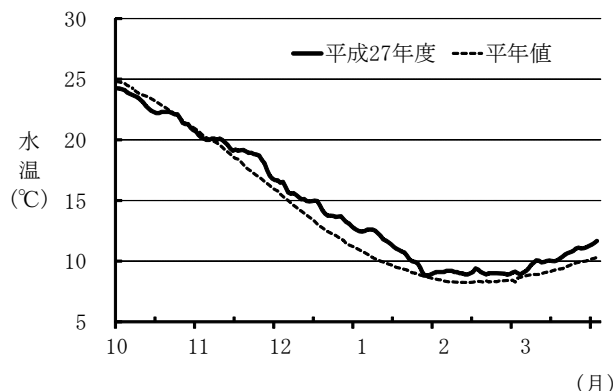


図4 平成27年度漁期日平均水温の推移
(水深2m層)

*岡山県農林水産総合センター普及連携部水産普及推進班

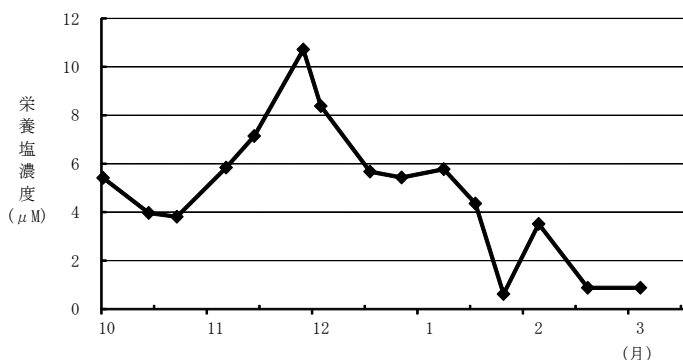


図5 平成27年度漁期時期別溶存態無機窒素濃度の推移

採苗及び育苗 県内での採苗は1漁協が実施しており、10月上旬から中旬にかけて採苗が行われた。

育苗開始は海水温24℃以下を目安としており、10月14日から開始され、11月上旬にほぼ完了した。

生産 例年、単張りは概ね水温19℃を目安に開始される。早い地区では11月1日から順次開始され、11月10日頃から本格化したが、水温降下が鈍化したため11月23日前後に遅らせた地域もあった。生産開始は早い地区では11月16日から、全県的には11月下旬頃からとなった。生産開始当初、芽傷み、伸長不良、鳥類や魚類の食害によ

る影響で生産量が伸び悩んだ。特に河口域周辺の日生地区、児島湾周辺漁場では11月中旬の大雨の後、芽傷みにより一部の網は生産不能となった。

12月に入っても高水温は続き、県全域で伸長不良、食害の影響で生産量が伸び悩んだ。児島湾周辺漁場では、降水による比重の低下や高水温により赤ぐされ病が発生し、12月下旬まで多くの漁業者が早期摘採、酸処理に追われた。1月まで一部の漁場で食害が続いたが、県全域で伸長が回復し、まとまった量が生産され始めた。ただ、日生地区では網の傷みのため1月以降生産できず、また、県西部では1月上旬から栄養塩の低下に伴い色落ちが始まり、下旬頃には県全域に拡大した。そこで、吉井川水系の利水者の理解を得て、2月18日から22日の間に苫田ダムからの緊急放流が実施された。

2月以降は定期的な降雨があり色調も回復したことに加えて、全国的な不作により単価が高めで推移したことから、県東部では3月上旬、その他の海域では概ね3月下旬まで生産が続いた。

生産結果 今年度の生産枚数は1.8億枚（前年度比83.7%）と前年より減少したが、平均単価が9.73円（前年度差+1.21円）と高かったため、生産金額は17.3億円（前年度比95.6%）と昨年並みとなった。